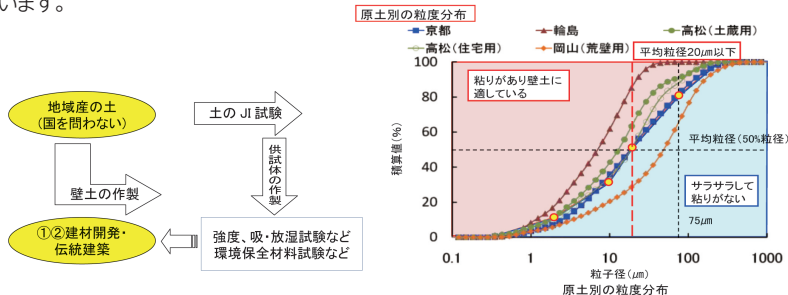


地域産土を主材料にした 伝統建築と環境保全材料および建材開発

土に関わる建物の居住者は世界で40%と言われ、土塗壁・日干しれんが等は古くて新しい材料です。我が国の場合、伝統建築の土塗壁は工業製品の台頭で過去の構法になりつつありますが、シックハウス対策、温熱環境の改善、歴史的街並み構成、護美が出ないなど多くの利点を有することから見直されています。

土の性質は同じ地域でも異なるため、土塗壁用の壁土を廃棄処理まで検討し、土の多様性に注目します。

- ①壁土の強さ、吸・放湿および断熱性等から地域産土を評価し、低品質な土の改善および改良方法を提案します。
- ②壁土の再利用、健康住宅、意匠性等から環境保全材料として検討します。



基準試験に従い、土および壁土の強度等の性質を定量評価し、土塗壁に反映することで国内外を問わず積極的に工法・構法の改善と普及および環境の質の向上を図る。

土は国・内外を問わず無尽蔵です。土塗壁は寿命で解体・廃棄に至っても水および新土と混合すると再使用でき、護美の出ない唯一の材料に着目しています。今後は土を主たる建材としている諸外国も視野に、土塗壁を耐震性と環境保全材料から注目し、改質材料を検討することで新建材としての実用化を考えています。是非、お気軽にお問い合わせください。



浦 憲親 教授

学部：環境・建築学部 学科：建築学科
所属研究所：地域防災環境科学研究所
博士(工学)。日本大学工学部建築学科卒。同大学院工学研究科修士課程(建築学)修了。昭和47年本学助手就任。講師、助教授を経て、平成11年現職。

Keyword

建築構造・材料/建築環境・設備/無機材料・物性